十島村教育委員会だより　令和５年７月号

さわやかトカラ情報

南北１６０km
「心をつなぎ　気概に満ちた」十島の教育

十島村教育委員会
〒892-0822鹿児島市泉町13番13号
TEL　099-227-9771

【声をかけやすい雰囲気づくりを！】

十島村教育長　木　戸　　浩

今年も３回に分けて村政座談会を実施させていただきました。各島の現状を十分に把握できました。また，大雨による大きな被害等もなく，なんとか梅雨を乗り越えられそうです。教育委員会としましても子どもたちや教職員，そして村民の皆様の安心・安全を第一に考えながら，これからも対応していきたいと思います。

◎　声をかけやすい雰囲気づくり

～村民，子ども，保護者，誰に対しても～

学校に勤務していた頃，ある方がこんな話をしてくださいました。「○○学校の先生たちは，声をかけやすいです。声をかけにくいと，『もういいです』という気分になって，それ以後，親も子も，その学校の先生には何も話したくなくなりますよね。でも，○○学校の先生たちはいいです。」と。

「○○学校の先生方は声をかけやすい。いろいろと相談しやすい。」という印象や評価は，非常に嬉しいことです。

学校に出入りされる業者の方からいただいた話です。「◇◇学校の先生たちは，よくあいさつをしてくださいますよ。自分が一人の先生と仕事の話をしている時も，横を通られる先生方が『こんにちは』とか『お疲れ様です』と言って通って行かれますよ。あれって，すごくいいですよ。学校によっては，全然されない所もありますよ。いろんな学校に行きますから雰囲気はすぐ分かります。」

「声をかけにくい雰囲気をつくらない」。人を相手に，人と向き合いながら仕事をしている以上，声をかけやすい雰囲気をもった職員（学校においては先生たち）でありたいものです。そうすると，こちらは黙っていても子どもも保護者も，地域の方も，多くの村民や様々な立場の方々もいろんなことを語ってくださるはずです。公の場では「にこにこ，はきはき，きびきび」，これは子どもにも大人にも必要です。十島村内の学校はどうでしょうか？　生徒指導上の指導をする際にも，見下すような表情や高圧的で乱暴な言葉に終始する指導ではプロとは言えません。（そう言えば，教師も子どもを呼ぶ際に「さん」を付けているでしょうか。せめて，授業中の「さん」付呼名は，徹底できているでしょうか。）

私たちは，すれ違う人を「面識が無い」と思っていても，その方は，私たちが村役場（学校）の職員であることをよく知っておられます。庁舎内で人とすれ違う時は，その人と特段面識が無くても，「こんにちは」「お疲れ様です」と温かみや感謝を込めた挨拶を率先して心掛けたいものです。学校現場でも誰に対しても分け隔て無く，挨拶を自分から進んでやってくださっていると思います。

自分の進路は？（高校説明会）

村内全中学生は，高校説明会に参加しました。今年度は，２日間にわたって鳳凰，鹿児島実業，神村学園，鹿児島水産，甲南，鹿児島高専の先生方がＴＶ会議を使って生徒への学校説明を行いました。

生徒からは学校生活や資格取得，部活動など各学校の特色に関する質問を行いました。

８月は人権同和問題啓発強調月間

部落差別（同和問題）をはじめとする人権問題を解決するためには，県民に人権尊重の理念が普及し，その理解を深めていくことが重要です。

このため，県では8月を「人権同和問題啓発強調月間」と定め，この期間中に各種の啓発活動を集中的に実施します。

全ての人の人権が尊重される社会づくりのためには，私たち一人ひとりが，自分の人権だけではなく，他人の人権についても正しく理解し，一人ひとりの多様性を認め合うことが大切です。

この機会に，あなたの身近なことから人権について考え，そして行動しましょう。

【新聞に投稿】※学年は投稿時

令和５年６月２０日　南日本新聞「ひろば」掲載）

わたしの帰り道

宝島小４年　有嶋　光

学校から家までの帰り道で、わたしが思うことは変わりません。それは、「今日もつかれたな。早く帰ってアイスを食べたいな」です。だからわたしはいつも早歩きで学校を出ます。

しかし、そんなわたしに話しかけてくる生き物や植物たちがいます。今の時期だとカタツムリやトカゲ、ユリなどです。

たとえば、カタツムリが「こんにちは。今日も雨ですね」。がさごそと音がしたと思ったら、トカゲが「あなたのかさの中に入りたいわ」。

ユリは「わたしは、ずぶぬれですわ。あなたたちのように動いてみたい」と話しかけてきます。

それでわたしは、「ごめんね。生まれ変わったら、いっしょに帰ろうね」
と返します。

わたしの帰り道は、植物や生き物と話すことができる、きちょうな時間なのです。

（令和５年７月６日　南日本新聞「若い目」掲載）

集合学習で学んだ

小宝島小５年　東　和心

十島村７島の５、６年生が先日、鹿児島市の少年自然の家に集まり、集合学習がありました。

森の中で野外炊飯をしたり、森林グループワークというゲームをしたりしました。森の木にかけてある指示書やクイズを見つけるゲームです。

私は中之島と平島、小宝島、宝島から１人ずつ参加するチームに入り、リーダーを務めました。クイズの答えを一緒に考えながら、ゲームを進めていくうちに友達との交流も深まりました。お互いに協力する大切さを学ぶことができました。

３泊４日の集合学習は、あっという間に過ぎた感じがしました。十島の仲間たちとの生活がもっと続いてほしいなあと思いました。

学びが多かったこの集合学習の経験を、これからの学校生活に生かしていきたいです。このような機会を与えてくださったみなさんに感謝したい。

子供のうた

（六月十六日　南日本新聞掲載）

みんなすきだよ

おかあさん
かごしまのおみやげ
ありがとう
おとうさん
おいしいごはん
ありがとう
おねえちゃん
いっしょにあそんで
ありがとう
みんなみんなありがとう

悪石島小１年
れにゅえる　これっと

十島村で学ぶ

【口之島で生活してみて 】

口之島中２年　濵田　怜

僕が口之島に来て，２年目を迎えました。僕は寮で生活をしています。寮には僕の他に１学年下の寮生がおり，その寮生を本当の弟のように思って接しています。寮生活は時には辛いこともありますが，毎日楽しいことの方が多いです。また，学校では小学生と同級生，中１，中３でふざけたり，真面目に勉強したりして，学校生活を送っています

僕が島に来て感動したことは，みんなが優しく接してくれることです。ぼくは本当に口之島に来てよかったなと思いました。

今，意識していることは，昨年の卒業生みたいに，みんなをまとめられるようになることです。なぜなら，中学３年生は受験があるので，３年生が負担にならないように自分がまとめ役になり，頑張ろうと思ったからです。

将来の夢は数学者です。僕が数学者になりたい理由は，数学の面白さをある映画で知ったからです。

これからも口之島での生活を，１日１日大切にして，将来の夢をかなえていきたいです。

【悪石島小・中学校からのメッセージ】

教頭　　芝原　寛

悪石島小・中学校に赴任して3年目となりました。赴任して以来，3名の山海留学生が卒業し，自分の選択した道に向かって島を離れる姿を見送ってきました。

一人一人がそれぞれに悩みや課題を抱える中，学校の先生や島の人たちとの関わりの中で，成長し，自分の未来を切り開く力を養い，この島を巣立っていきます。卒業生が島立ちを前に，島の生活でお世話になった方々へ挨拶に回っている姿を見たり，「将来は、島に戻ってきたい」という会話を聞いたりすると，学校の子供たちが島の方々の愛情をいっぱい受けていること，子供たちがそれを実感しつつ成長していることが分かります。私も含め，子供たちの成長に少しでも関わっているという実感が持てるということは，とても幸せなことです。子供たち，一人一人の思いや成長を感じられる距離に子供たちがいることが十島村の学校の魅力だと私は，思います。

来年度は，十島村の小・中学校は，義務教育学校へと変わります。新しい形のスタートに向け準備を進めていくことになりますが，9年間よりも，もっと長い時間を見通した教育がこの島には，あるように思います。すでにあるものを大切にしながら，一つ一つ丁寧に繋げ,形にしていくことができればと考えています。

『教職員仲間であるあなた』への　私からのメッセージ

ついつい忙しさに追われる日々になりがちですが，子供たちのために，島のためにできることを見付け，充実した日々を送りましょう。